



三つ柏

— MITSU KASHIWA NO.34 —

令和元年12月25日発行

情報モラル教室を開催しました

大切なのは「決める」+「守る」

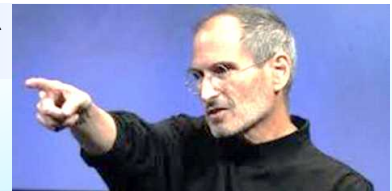
KDDI スマホ・ケータイ安全教室



12月24日(火)、KDDI株式会社東北総支社長 松島伸一郎氏を講師にお迎えし、5・6年生を対象に情報モラル教室を行いました。三つ事例を動画で見ながら、何がいけなかったかを考えました。「契約者である保護者の許可なく、勝手にダウンロードや課金をしない」「個人情報や他人の写真は絶対にアップしない」など直接的な禁止事項だけでなく、家族と約束事を「決める」で終わらず、大切なのは「守る」「守らせる」こと、文字だけで気持ちを伝えるときは、相手のことを十分に考えることなど、スマホを使用するとき以外にも気を付けたいことを教わりました。もしもトラブルに巻き込まれたら、一人で悩まず親や先生にすぐに相談するというのも、どんな場合でも大切ですね。松島先生は、最後に「今日の授業で何を学んだかを家の人に必ず伝えてください」と言っていました。5・6年生の保護者のみなさん、お子さんはきちんと伝えてくれましたか？昨日、話題にならなかったら、是非、今日お子さんに聞いてみてください。

子どもにiPadを使わせなかったジョブズ

3年生の学年便りに『『機械』よりも『読書・瞑想』』と題した記事が掲載されていました。考えさせられた記事でしたので、その主な内容をご紹介します。



ニューヨーク・タイムズ紙のコラムニストであるニック・ビルトン氏が、アップル創業者のスティーブ・ジョブズ氏に生前「お子さんはiPadを気に入っているのですか」とインタビューした際、ジョブズ氏は「まだ使ったことがない。我が家では、子どもが家で機械を使うことを制限している」と答えたそうです。

それでは、ジョブズ氏の子どもは家でどのように過ごしていたのか。『スティーブ・ジョブズ』の著者であり、ジョブズ氏や家族取材したウォルター・アイザックソン氏によると、「夕飯のとき、ジョブズは子どもたちと本や歴史など様々なことについて話し合っていた。誰もiPadやコンピュータを取り出しておらず、子どもたちは機械中毒には見えなかった」とのこと。

他の技術関係の経営者や投資家の中にも、ジョブズ氏と同じように子どもが電子機器を使う際にも制限をかけている人が多いそうです。理由としては、「インターネット上の暴力シーンやポルノなど有害な内容から子どもを守る」ことや、「親が体験したような機械中毒にならないように」というものが挙げられたそうです。

電子機器を使う時間が増えた代わりに、現代人が確実に失った時間があります。一つは読書の時間。読書時間は過去の偉人達の叡智に触れる貴重な時間だが、スマホのゲームや友人同士のSNSでのやり取りに消えてしまっているのです。

また、思索を巡らす時間、考える時間も減っているそうです。ジョブズ氏は『『瞑想』を通して『未来が見える』』とも発言したそうです。

ジョブズ氏のように創造性豊かな技術者が、機械から離れる時間の大切さを知っていたのは注目すべきことですね。

※長期休業前に保健室から配付される「生活チェックシート」。今回は早寝・早起きなどに加えて、ゲームやスマホの使い方についてチェックする欄を設けました。お家の人と約束事を決め、それを守ることができたかを確認するものです。テレビの見過ぎも含めて是非お子さんと約束事を決めてシートを活用してください。

「防災マップ」を使って — 冬休み前地域子ども会 —

少し前の事ですが、12月13日(金)、冬休み前の地域子ども会を行いました。これまでの登校の様子などについてよかった点や改善点などを話し合ったり、冬休みの地域の行事、危険箇所の確認などを行いました。危険箇所の確認では、6年生が6月から作ってきた「防災マップ」を使って説明し、みんなで意見交換をしました。冬休み中も安全に気を付けて楽しく過ごしてほしいと思います。



心を込めて書いた年賀状、誰に出すのかな？



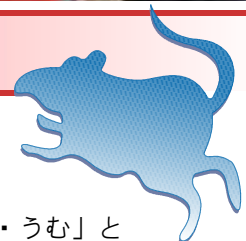
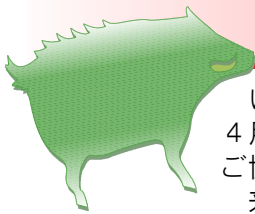
P T Aの全体会や学校報で紹介した郵便局主催の「手紙文化振興支援事業 サンキュー♥年賀」。授業で活用できる学年では、学校内で年賀状づくりに取り組んでいました。3年生は、パソコンの使い方やローマ字の勉強を兼ねて取り組みました。イラストを入れたり、文字を入力したり思い思いに心を込めて年賀状の裏面を作っていました。1, 2年生は、しっかりと丁寧な字を書く練習をしながら年賀状づくりに取り組んだ後、それぞれ郵便局のポストに投函しにいきました。投函するとき「どうやって相手に届くのかな？」と郵便局の局長さんに質問するなど、はがきに対して興味を広める活動になったようです。6年生は、今年の思い出や中学生になる来年の決意などを文面に示してはがきを作成しました。さすが6年生、文章の長さにはびっくりしました。



はがきや手紙を書く機会がほとんど無くなった昨今ですが、年に一度は相手の事を思いながら、はがきをしたためる時間を大切にしたいものです。ご家庭でも頂いた年賀はがきを使って、お子さんに年賀状づくりに取り組ませていただければと思います。



来年もよろしくお祈いします



いろいろなことがあった令和元年も後わずかとなりました。4月以来、本校の教育活動に対しまして、様々な面でご支援、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

来年の干支は「子」。中国の『漢書』では、「子」は「繁殖する・うむ」という意味をもつ「孳」という字からきており、新しい生命が種子の中に萌(きざ)し始める状態を表しているとわれています。中国伝来の十二支は、もともと植物が循環する様子を表しているの、十二支の一番目にそのような意味をもつ「子」がくるのだそうです。

植物が循環する様子を表している十二支の1番目に「子」がきているように、子年を植物にたとえると新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になると考えられているそうです。

本校も、これまでの取組を踏まえ、子どもたちにとって何が大切かをしっかりと考えながら、新たな取組にチャレンジしていきたいと思っています。そのためには、これまで同様、保護者の皆様、地域の皆様のご協力とご支援が不可欠です。何卒、来年も今年と変わらぬご支援宜しくお祈いいたします。

オリンピックも開催される令和2年が、子どもたちにとってはもちろん、ご家庭の皆様、地域の皆様にとって、健康で幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。

(白岩小学校職員一同)